



ぼうさいあいち

会報 平成27年 新年号
(11号)

2015. 1. 1

発行 日本防災士会愛知県支部

日本防災士会愛知県支部・草創期の歩み

日本防災士の倉知彰治です。10年前を振り返ってみますと愛知県の認証日は、平成15年6月11日、全国でも8番目。日本防災士機構のバックアップを得て、日本防災士会が設立されました。何も無いところからの立ち上げ準備には機関車を動かす時、最初は大きなエネルギーが必要のように計り知れない苦労がありました。

支部規定も出来て、平成17年8月1日より効力が発生しました。愛知県支部結成までに紆余曲折と随分時間もかかり、その間当時、愛知県から日本防災士会へ4名の幹事が出ていました。

日本防災士会愛知県支部設立総会は、平成18年4月22日、名古屋市中村区の東特会館で開催されました。代表に岩崎政弘・日本防災士会幹事を選び、会員250人によりスタートしました。

防災士制度は、被災現場で実際に役に立つための一定の知識と技術や実践力を身に着つけたリーダー育成のため、阪神・淡路大震災後に発足しました。

「自分の身は自分で守る」ことを第一に、自分の身を守れてこそ「家族を守る」ことが出来、そして、近隣の人々と手を携えて地域での災害対応が可能となることを目指しています。

発足当時、県内には防災士が約700人ほどいましたが、東海・東南海地震の発生が予想されていたながら組織化されておらず、それまでは、まとまった活動ができていませんでした。



倉知 彰治
日本防災士会 監事
愛知県支部代表代行

最初、支部は名古屋、尾張、知多、西三河、東三河の5ブロックで構成。ちなみに平成18年度事業計画案は1. 会員の増強 2. 地域ブロック体制の確立 3. 自治体・消防組織等の連携強化 4. スキルアップ等に関する研修会等の実施 5. 会員間の交流促進 6. 広報活動の推進となっています。

特に設立総会から1ヶ月余りで岩崎代表が亡くなり、代表の後任に保坂松男代表代行が次の平成19年度総会まで代表代行を務め、その後、保坂松男代表の下、愛知県支部は続いています。



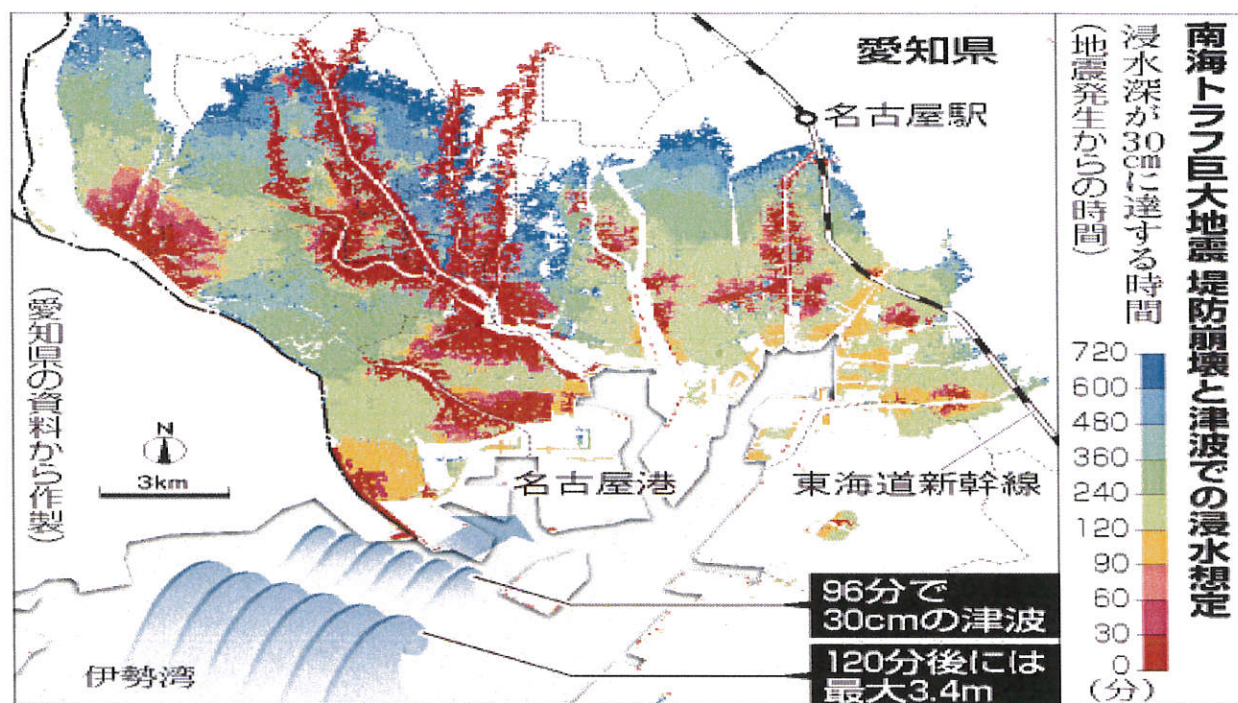
【日本防災士会 愛知県支部設立総会当時の役員メンバー】

…● 忘災こそ防災の敵である ●…

本年 5 月愛知県防災会議において国が想定した南海トラフ巨大地震の想定に対し、独自に新たな想定が見直されました。

南海トラフ巨大地震でマグニチュード9で地震が起きれば国の想定より約 6,000 名(約 26%)多い約 29,000 名が県内で死亡するという独自の被害想定を発表しました。

地震により堤防や防潮堤が決壊したり、また液状化による沈下、また海拔ゼロメートル地帯が浸水し、更に津波に襲われるという「複合災害」が起きるとみなしました。



愛知県の発表では、冬の午前5時に発生した場合、死者数が最大になると言われています。

堤防などの決壊、沈下により引き起こされる浸水と津波による死者は全体の約 45%に当たる 13,000 名。2010 年 8 月に国が公表した想定(約 6,400 名)の約 2 倍にあたります。

その他の死者の内訳は、建物倒壊で約 14,000 名、火災約 2,400 名、急傾斜地崩壊約 40 名、津波浸水での建物全壊は約 22,000 棟で国の想定(約 8 倍以上、浸水面積は(約 1.0 cm 以上)は 3 倍以上の 370 平方キロメートルに及ぶといわれています。

愛知県は、濃尾平野を中心に地面と海面の高さが同じゼロメートル地帯を多く抱えており、全国都道府県で最大の約 79 平方キロメートルで、この地域に推定計 76 万人が住んでいます。

地震で堤防などが崩れ、この地帯に川や海の水が大量に流れ込んで死者が出始めるとされる水深 30 cmの地域が広がっており、その後に伊勢湾に最高 3.4 メートルの津波が押し寄せるといいます。

ゼロメートル地帯は自然に水が引かず、排水しないと復旧作業に入ることが出来ず伊勢湾台風では排水に4ヵ月以上かかっております。

東海、東南海、南海地震の発生が叫ばれている中で、日本列島の太平洋沿岸の三分の二の地域を占め東海から九州にかけて巨大な南海トラフ地震の発生が予想されております。そのよう中で自然の災害は防ぐことは出来ませんが、過去の災害の尊い教訓を忘れることなく減災に立ち向かって行かなければなりません。

国は伊勢湾の高潮防潮堤、また堤防の耐震性と併せ高潮、津波対策の強化の対策が進められておりますが何時襲って来るかしのれない災害に対しては、やはり出来るだけの備えをしておかなければなりません。

日常の備えについて言葉では理解しておりますが首都直下地震の発生が予想される関東地方で備えについての震災意識調査によると家族との安否確認の方法を決めたり家具転倒防止対策を取ったりしている方が4割、更に食料、飲料水の備蓄については賞味期を確認されておらず、備蓄していない方を含め約4割の方が出来ていないという結果であり、愛知県では以下の結果です。

防災に関する愛知県民アンケート結果（単位：%） ××：最悪 ○○：良 ○：要努力

	前回(12年1月)	今回(14年1月)
南海トラフ巨大地震に「非常に関心」	63,6%	×× 50,1%
家具などの固定	49,6%	○○ 56,1%
自主防災活動への参加体験	29,0%	○ 31,5%
食料の備蓄	32,4%	○ 32,6%
飲料水の備蓄	32,8%	× 32,4%

このような状況の中で災害に対処するため、日頃から非常時の対策を考えておかなければなりません。

非常持ち出し品については、それぞれの考えもあり内容が異なりますが、特に食についての備えに併せて排泄(携帯トイレ)についても考えておくことが大切です。

その他に考えておかなければならないことは、伊勢湾を含む知多半島には東海、信越の各地方にエネルギー(電気は火力による、ガス、液化燃料)を供給している基地が集結しております。

万一の場合に何となく当たり前に使われているものが使えなくなり生活の様式が大きく変わります。(中越、中越沖地震、長野県北部地震時の避難所の生活を見て)

防災への備えは幾多の災害から生み出されたものであり、地域の隣人に支えられ命の大切さを忘れることなく語り継ぐ防人を育くんで行くことを続けて行かなければなりません。

参考資料：中部地方整備局、県防災局、朝日新聞社

研修委員会からご報告

皆様のご理解とご協力のもと、当初計画の数々の研修が成功裏に無事終了いたしました。

特に特別研修の「DIG & イメージTEN」は指導者養成のための詳細な内容で、「DIG」を原点に戻って深く理解し、目的は何でどれだけ深くイメージして行動することができるか、大変みのりのある研修となりました。



また昨年に引き続き、名古屋地方気象台講座を「気象と災害」・「防災気象情報の活用」・「地震と津波」の3回シリーズで学習いたしました。専門の気象官や調査官から直接学べるこの講座は内容も新鮮で意義深く、貴重な資料も満載のため大いに役立ちました。これからも愛知県支部を代表する目玉の研修会として継続していきたいと思っています。

残念なことに10月6日(月)の名古屋港洋上セミナーと、10月13日～14日に予定していた一泊研修旅行は、相次ぐ台風18号・19号襲来のために延期となってしまいました。

洋上セミナーは船舶の都合により27年4月以降に改めて計画させていただくことになりましたが、一泊研修旅行は皆様のご希望にこたえて、3月22日(日)～23(月)に、再度同じ内容で実施することが決定し安堵しています。

以下に3月までに開催の2つの研修会のご案内をいたしますので、皆さんふるってご参加くださいますようお願いいたします。

研修委員長 森 千代子

特別研修のご案内

「避難所運営の方法」指導者養成講座

と き 平成27年2月1日(日) 9時～16時

ところ 東特会館 4階 会議室

講 師 静岡県支部 副支部長 清水俊雄氏

参加費 500円(資料代等)但し、会員外の参加希望者は1,000円

避難所の運営方法について、初心者にも解りやすく基本から

じっくり指導法を学ぶ、なかなか得難い講座です。

この機会をお見逃しなく、ぜひご参加ください。

<昼食と飲み物は各自でご用意ください>

参加申込先 ① 事務局担当 鈴木孝則 E-mail d.keiri@mbn.nifty.com

FAX 052-453-1890

② 研修委員長 森千代子 E-mail morichiyo@bc4.so-net.ne.jp

TEL&FAX 0587-66-4631

・氏名 ・郵便番号 ・住所 ・電話番号をご記入ください

(E-メールアドレスのある方は是非メールでお申込みください)

申込締め切り 1月26日(月)までに上記①②のどちらかにご連絡ください

ぼうさいあいち⑤

一泊研修旅行へのお誘い

栄村・中越・中越沖地震の被災地を 訪ねて学ぶ

旅行日 平成27年3月22日(日)～23日(月)

参加費 一人3万円位

(参加人数により多少変動します)

宿泊先 越後湯沢温泉 ホテル「双葉」

新潟県南魚沼郡湯沢町大字湯沢 419

Tel 025-784-3357 (代)

＜長岡市のがけ崩れ現場＞



集合 3月22日(日) 7:35 名古屋駅銀の鈴前(新幹線口側、旧壁画前)

旅行業者 (株)アイ・ツーリスト 大型観光バス45人乗りを利用

日程

1日目 3月22日(日)

名古屋駅発 7:45＝名古屋高速＝中央道＝長野道＝上信越道＝R117＝13:15 栄村



「トマトの国」(昼食・講話「栄村の被災状況とその後の復興について」) 15:00＝15:30 栄村小滝部落(集会所で講話「部落の災害状況とその復興と取り組みについて」) 17:00＝18:00 ホテル「双葉」着

夕食・懇親会

＜栄村の道路崩壊現場＞

2日目 3月23日(月)

ホテル発 8:00＝9:00 長岡市山古志支所・復興交流館(被災現場や土木遺産などを案内付きでバスで巡り視察) 10:30＝11:30 柏崎市役所(昼食弁当・市職員による「中越地震の被災状況とその後の復興について」) 14:00＝北陸道＝上信越道＝中央道＝20:00

名古屋駅着・解散 (当日の道路交通事情により若干の変動もあります)

参加申込先 ① 事務局担当 鈴木孝則 E-mail d.keiri@mbn.nifty.com

FAX 052-453-1890

② 研修委員長 森千代子 E-mail morichiyo@bc4.so-net.ne.jp

TEL&FAX 0587-66-4631

・氏名 ・郵便番号 ・住所 ・電話番号をご記入ください

(Eメールアドレスのある方は是非メールでお申込みください)

申込締め切り 1月26日(月)までに上記①②のどちらかにご連絡ください

ぼうさいあいち⑥